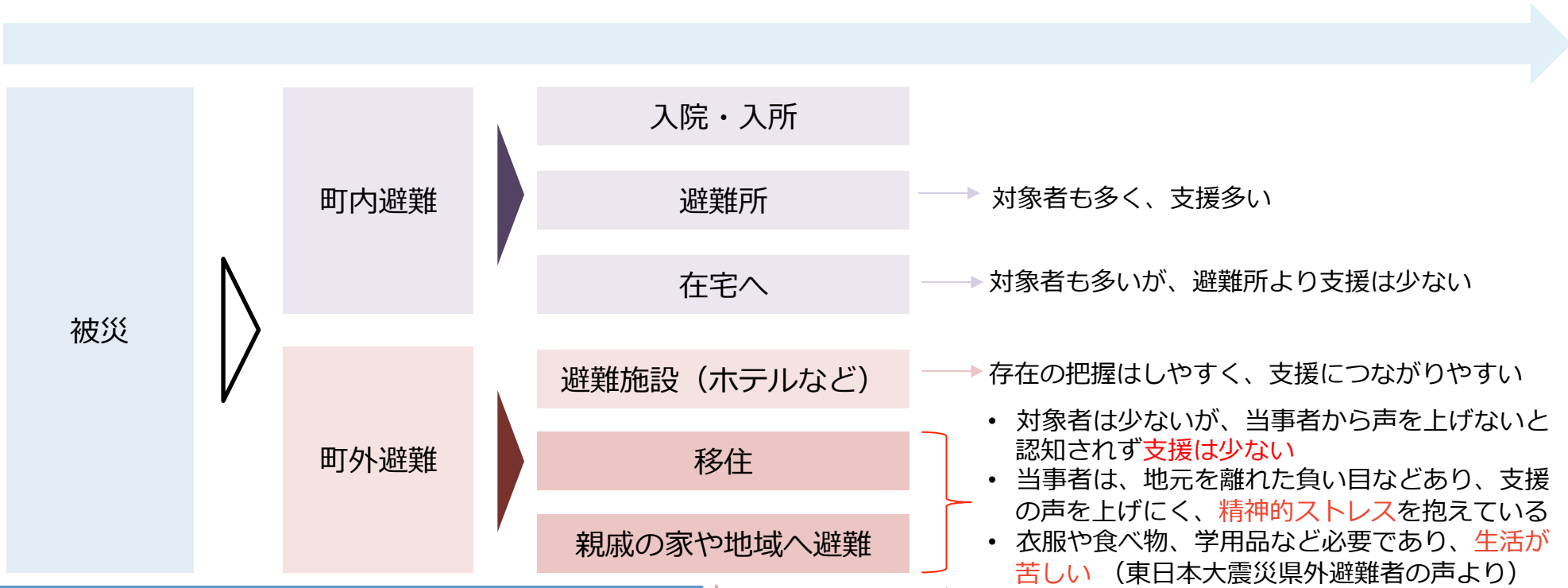


**熊本地震における県外避難者の支援の必要性と  
健康課題の経時的変化予測と対策  
Ver1.2**

---

一般社団法人りぷらす

# 避難先別にみる、支援の違い（3.11より） ～町外避難者の支援の必要性～



## 3.11の県外避難者の情報システム



熊本地震による、県外避難者情報システムはまだ構築されていないようです。  
(H28.4.22現在)

**生活不活発病のリスク**

震災後に歩きづらくなり、7カ月後も回復しなかった高齢者の比率

		非要介護者	要介護者
仮設住宅	町内	30.4	48.8
	町外	29.0	41.2
一般住宅	津波の被害地域	18.8	30.1
	被害がなかった地域	13.5	23.1
	町外	24.2	34.4
合計		21.2	33.9

# 町内避難者のエコノミークラス症候群および生活不活発病の経時的変化のイメージとその対策

震災発生

避難所

仮設

エコノミークラス症候群 (DVT)

生活不活発病

## エコノミークラス症候群と生活不活発病の対策

	エコノミークラス症候群	生活不活発病
エコノミークラス症候群	<b>原因</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・水分不足</li><li>・運動・活動量不足</li><li>・ストレスなど</li></ul>	<b>原因</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活環境と生活機能のミスマッチ</li><li>・「すること」がなくなる</li></ul>
	<b>対策</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・トイレなど衛生面の改善</li><li>・ダンボールベッドの導入</li><li>・弾性ストッキングの導入</li><li>・体操、散歩などの実践</li></ul>	<b>対策</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・生活機能低下のモニタリング、環境調整にリハ専門職を活用</li><li>・仮設住宅移行期に、リハ専門職が生活環境と生活機能を確認<ul style="list-style-type: none"><li>・抽選ではなく、コミュニティー単位での仮設住宅への入居</li></ul></li><li>・支援される側から、支える側へ一緒に活動する(役割作り)</li></ul>